

芸術

教科	科目	単位数	履修年次・選択群	履修区分
芸術	音楽 I	2	1 年次・選択	選択必修
使用教科書（出版社）		副教材（準備するもの）		履修の条件・連絡
高校生の音楽 1（教育芸術社）		ファイル		1 年次必修科目

1 科目の目標と評価の観点

目 標		
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		
(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。		
(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
評価の観点及びその主旨		
1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

2 学習計画と観点別評価項目

	学期	学習内容（単元・項目）		月	学習のねらい	評価の観点
学 習 の 年 間 計 画	1 学 期	歌唱	校歌	4	・正しい発声を身に付ける。 ・表現の工夫をし、表現力を高める。 ・写譜により楽譜を理解する。	1 3
		鑑賞 器楽	西洋音楽・バロック 「クラッピンカールテット第1番」	5	・文化的・歴史的背景を理解する。 ・リズム・曲の仕組みを理解する。 ・工夫して表現できるようにする。	1 2 3
		創作	芸術 音・美・書合同創作活動		・各科目の持つよさを生かしながら、協力し合って創作活動を行う。	2 3
		歌唱	「O sole mio」	6	・イタリア語の発音の特徴を理解する。 ・曲想にあった表現の工夫ができるようになる。	1 2 3
		鑑賞	西洋音楽・古典派 1	7	・作曲家の生涯に学び、楽曲を鑑賞する。	2 3
	2 学 期	鑑賞 歌唱	「ウェストサイドストーリー」 「Tonight」二重唱	9	・作品のテーマを理解して鑑賞する。 ・物語と音楽との関わりに注目して、創意工夫して表現する。	2 3
		器楽	ギターの基本的な奏法	10	・ギターの奏法を身に付けるとともに技能の習熟度に応じた音楽表現を創意工夫して演奏する。	1 2 3
		鑑賞 歌唱	西洋音楽・古典派 2	11	・音楽に込められた作曲者の思いについて考えを深める。	1 2 3
				12	・混声合唱の響きを味わい歌唱表現を創意工夫する。	
		鑑賞	音楽旅行記		・地域と風土や生活、文化や伝統を理解し、音楽的視野を広げよう。	2 3

令和6年度 シラバス

愛媛県立新居浜南高等学校

3 学 期	歌唱	「この道」	1	・日本語を美しく歌うための技能を身に付け、情景を思い描いて歌唱表現を工夫する。 ・歌舞伎舞踊の音楽の特徴を理解し、長唄の特徴を感じ取って唄えるようになる。 ・縦譜の読み方を理解し、箏の基本的な奏法を身に付ける。	1 2 3		
	鑑賞 歌唱	歌舞伎「京鹿子娘道成寺」	2		1 2 3		
	器楽	「六段の調」	3		1 2 3		
学 習 評 価	観点	1. 知識・技能		2. 思考・判断・表現		3. 主体的に学習に取り組む態度	
	規 準	○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解しているか。 ○創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表しているか。		○音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚できているか。 ○知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて意図をもって表現したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしているか。		○音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしているか。	
	手 段	・活動の様子 ・ワークシート ・実技		・活動の様子 ・ワークシート ・実技		・活動の様子 ・ワークシート ・実技	
	単元末や学期末及び年次末における評価の総括方法		単元末、学期末ごとに評価を総括し、年次末に単元末と、学期末の総括を行い評価する。				
	学習上の 留意点	・基本的に教科書を中心に授業を展開するので、楽譜が読めるように予習しておこう。 ・楽器（ギター・箏）の基本奏法を身に付けよう。 ・自ら進んで取り組み、自分のできる精一杯を表現してみよう。					